

21世紀文明シンポジウム「減災—東日本大震災から5年」

# 未来の災害に備え

## 第2部 復興の検証

「第2部は「復興の検証」をテーマとした。

阿部 東松島市は7地区で防災集団移転を実施し、移転先を役所ではなく住民自身が決めた。避難所の運営も住民が担った。小さな災害なら役

阿部 秀保氏  
今井 幸一郎氏  
番匠 幸一郎氏  
坪井 ゆづる氏

### 住民力引き出す行政

### 原発の危機意識残る

### メンタルケア充実を

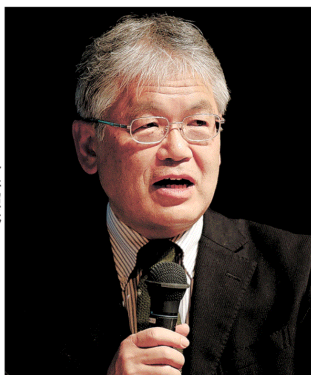
### 国主導の再建に疑問

第2部パネリスト  
東松島市長  
福島大行政政策学類教授  
前陸上自衛隊西部方面總監陸将  
朝日新聞社東北復興取材センター長

阿部 東松島市長は「復興の検証」をテーマとした。阿部 東松島市は7地区で防災集団移転を実施し、移転先を役所ではなく住民自身が決めた。避難所の運営も住民が担った。小さな災害なら役



阿部 秀保氏



今井 幸一郎氏



番匠 幸一郎氏



坪井 ゆづる氏



被災地から情報発信する意義も確認したシンポジウム

東日本大震災の被災地の復興は日本の災害の歴史の中で例外的に遅い。子孫が再び津波被害に遭わない安全な街をつくらうと、過去と断絶した画期的な復興を目指したためだった。

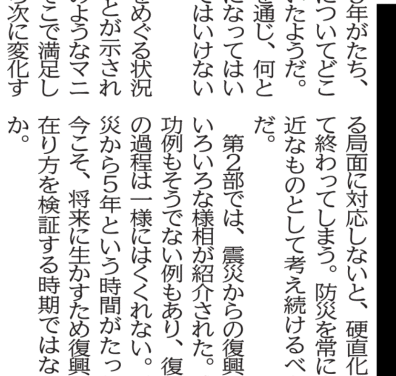
## 五百旗頭 真氏 (ひょうご 震災記念 21世紀研究機構理事長) 工夫と努力で古里再生



復興の進み方には被害状況に応じて3つのカテゴリーがある。全面的に壊滅しゼロから新しい街をつくる「A」、中心部が浸水し、現在の街を生かして多重防御を試みる「B」、既存の防潮堤などが機能して被害を抑えた「C」だ。特にAは時間がかかる。大

工事するより逃げる手段を確保した上で住めばいいではないか」という意見があるかもしれないが、二度と同じ被害を出したくないという住民の思いを重く捉えるべきだ。街の安全性を高めるインフラを整備された後は、にぎわいのある街をつくるのが課題になる。

## 御厨 貴氏 立ち止まらず変化に対応を



東日本大震災から5年がたち、私たちは災害や復興についてどこか「百年増」になっていたようだ。今回のシンポジウムを通じて、何となく分かったつもりになってはいけなく、立ち止まっていけないと感じた。

第1部では、防災をめぐる状況が常に動いていることが示された。ハザードマップのようなマニュアルを作っても、そこで満足してはいけない。次から次に変化す

る局面に対応しないと、硬直化したままでは終わってしまう。防災を常に身近なものとして考え続けるべきだ。

第2部では、震災からの復興のいろいろな相が紹介された。成功例もそうでない例もあり、復興の過程は一概にはくれない。震災から5年という時間がたった今こそ、将来に生かすため復興の在り方を検証する時期ではないか。